平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1272400928		
法人名	有限会社 ピウ		
事業所名	グループホーム ピウ八幡		
所在地	千葉県市原市八幡125-1		
自己評価作成日	平成23年2月15日	評価結果市町村受理日	平成23年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4　千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成23年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

5階建てのビジネスビルを転用し、介護施設として運営している。建物の3，4階がグループホームのためとても眺望が良く、富士山を一望する事もできる。1，2階にはデイサービスが併設されているため、器械を使用した器械訓練やレクリエーションに参加する事ができる。また、入居者が安心して生活できる様、母体の医療法人、他医療機関との協力体制も整えているほか、職員の定着率の維持にも力を注いでいる。地域に精通した職員も多く、入居者と地域との橋渡しに貢献できる様努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

母体が医療法人であることから、医療面での協力体制が確立されている。ベテランの女性職員を中心とした家庭的雰囲気での生活の中に、併設のデイサービスでの行事への参加や、月例の食事会、車での外出等、生活にメリハリを付けている。職員全員が入居者全員を担当するようにシフトを組み、仕事の平準化、コミュニケーションの良化を図っている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔・優しさ・言葉使い・挨拶」をモットーに地域の中で支えていく、という事業所理念を施設内に掲示し、職員が常に意識しながら実践につなげられる様努めている。	理念が日常行動規範でもあることから、職員に趣旨が徹底している。ミーティングをはじめ、普段のケアの中でも、職員同士で喚起し合い、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に加入しているほか、自治会の敬老会や、地域の祭同好会との交流、地域の商店の利用、散歩等を通じて日常的に交流できるように努めている。	地域のイベントへの参加、ボランティアの受け入れ等により、交流を図っている。目標達成計画にも挙げて取り組んでいるが、立地環境の要因もあり、課題としている。	入居者の利用する商店等との交流を密にして、事業所の良き理解者の輪を広げることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や年間行事等を地域住民との交流の場として活用し、認知症の理解を深められる様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事の後に運営推進会議を行い、家族が発言しやすい雰囲気をつくっている。昨年度の途中から2ヶ月に1回の開催を定着化させ、毎回家族や行政の出席を得られる様に働きかけている。	市関係者、入居者家族の出席があり、サービス向上を意図した会議がもたれている。避難訓練後に実施して、消防署員にそのまま会議にも参加してもらい、防災についての話し合いを行う等、充実した会議が実施されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者に生活保護の方が多く、担当者との関わりを日頃からとっているほか、中核地域生活支援センター会議に出席し、地域の情報を集めるようにしている。	運営推進会議に出席があり、意見交換をしている。また、何かあれば、随時担当課に相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、内部研修を定期的に行っている。また、法人内での研修会や外部研修にも出来る限り参加して、身体拘束をしないケアに職員全員で取り組める様努めている。	外部研修への出席とその後の研修報告会に力を入れ、趣旨の徹底を図っている。事業所は3、4階にあるため、玄関の外にはエレベーターと階段があるが、日中は解放して、見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、その内容を定期的な内部研修を行うことにより、職員全員で共有して防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、その内容に基づいて内部研修を行う事により、職員全員が学ぶ機会を得られるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章を通して口頭で十分な説明を行うことにより、不安や疑問点の解消に努めている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に相談、苦情窓口を明記しているほか、年間行事や運営推進会議等で意見、要望等を表せる機会を設け、そこでの意見を運営に反映できるようにしている。	入居者の要望は、日常の行動や話の中から見つけることに注力し対応している。家族については、来訪時の話を聞き、運営に反映させている。家族の意見で居室に表札を付けることにした。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日報に職員のアイデアや意見を記入してもらい、ミーティング等で話し合う機会を設けているほか、必要に応じて職員アンケートを実施することで、意見を言いやすくしている。	週1回のミーティングや随時の3階、4階合同の内部研修等で話し合う機会を設け、意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト作成時に個々の職員の希望をできる限り取り入れるようにしている。また、役割を分担してもらうことで、やりがいや責任感をもってもらえるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での新人研修のほか、法人内外での各種研修に、職員の希望や能力に合わせて参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中核地域生活支援センター会議への参加のほか、他事業者との相互訪問を通して交流できる機会を設けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族との事前面談を通して、今までの生活スタイルや生活状況を把握できるようにし、環境が変わる不安を極力取り除けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時に、今までのつらかったことや困っていたこと、これからの不安や要望等を家族等が言いやすい雰囲気をつくり、入居後もなんでも言えるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との事前面談のほか、ケアマネジャーとの情報交換を行い、他サービスも視野に入れた支援を行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯、料理の補助等、一人ひとりの能力に応じて役割分担を設けることにより、生活を共にしている実感を持っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話時や家族訪問時等に連絡を取り合い、年間行事への参加、日常の買い物や美容院への同伴等、家族の可能な範囲で協力をしていただけるようにしている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、友人との電話のやり取りや、年賀状等の季節の便りのやり取りを支援する等、できる限りの支援に努めている。	電話の取次ぎ、手紙の代筆をしている。また家族の協力で自宅に帰ったり、友人を訪問したり、墓参りをするなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立せずに利用者同士が交流できるよう、全員での食事を基本にしているほか、4階との合同食事会も定期的に行い、利用者同士の関係の支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も本人、家族と連絡を取り合えるようにし、入居時と変わらない関係が築けるように努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中での何気ないコミュニケーションを大切にしながら思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族からの情報をたよりに、本人の表情や行動から理解するようにしている。	毎日いっしょにいるので自然に分かることも多い。把握した事は個別カルテに記入し、職員全体で共有している。また、家族やホームに入る前の生活を知る関係者から情報を得ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅での生活を感じられる様、使い慣れた日用品やアルバムを持参して頂いている。また、事前面談や日常会話、以前利用されていた事業所からの情報等をもとに、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の日課や過ごし方も含め、いつもと違う面が見られた時は、個別記録に記入して職員間で共有している。また、毎日のバイタルチェックや食事・水分・排泄の有無等を記録し、暮らしの現状の把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者からの情報をもとに介護計画を作成し、モニタリングに基づいた介護計画の見直しも行う様にしている。	把握した本人や家族の希望をもとに、職員全員の意見を反映させて、計画を作成している。また、状態に変化があれば、その都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の関わりの中で、気付いたことや変化等を個別記録に記入し、カンファレンスに反映する事で、情報の共有と実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスでの交流や、運動機器を利用して行うパワーリハビリにも参加できる様にしている。また、母体病院をはじめ、協力医療機関との間で24時間対応の体制を整えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣施設や商店等への理解や協力を得るための働きかけや、消防署と共同での防災訓練を行うこと等により、安全で豊かな暮らしを楽しむことができる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週3回母体法人からの看護師の訪問を受けているほか、本人、家族の希望するかかりつけ医を優先し、必要に応じて受診支援することによって、適切な医療を受けられるように支援している。	希望があれば、家族の協力を得て、かかりつけ医への受診を支援している。母体が医療法人なので、医療面では心強い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者の1日の状態等を個別記録に記入し、それをもとに訪問看護師や併設のデイサービスの看護師に伝えて相談し、適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院をスムーズに行うために、母体病院や協力医療機関との情報交換を行い、入退院時には職員が付き添い、そこでも情報交換を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りや重度化における対応の基本方針を、事前面談時や運営推進会議等で話し合う様にしている。緊急時に備えての母体病院や協力医療機関との連携体制も整えている。	対応の基本方針を文書化し、入居者や家族に説明している。母体病院と相談しながら、家族と密に連絡を取って、対応していくつもりである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内での研修会や、内部研修を定期的に行うことによって、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署との共同避難訓練を実施しているほか、様々な状況を想定した防災訓練を併設のデイサービスと合同で実施している。また、近隣の店舗と非常時の協力体制を築いている。	避難訓練実施後に運営推進会議を開き、消防署員に具体的なアドバイスをもらった。また、緩降機を使用しての訓練と器具の点検を実施した。隣の店舗には非常災害時の協力を依頼している。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の誇りを損ねないよう、命令口調ではなく優しい声かけを基本としながら、一人ひとりに合わせた対応を心がけている。また、ミーティング時等に、対応について話し合う機会を設ける様に努めている。	呼び方ひとつでも、本人がどのように呼ばれたいか確認して、一人ひとりに合わせている。また、トイレや入浴時にはドアを閉めるなど、基本的なことを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人が自己決定できる様に個々に合わせた声かけを職員全員で意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、起床時間の変更や個別の外出支援等、できる限り本人のペースを尊重できる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理美容院への付き添い支援を行っているほか、訪問理美容も希望に応じて利用している。また、個々に洋品店等の外出も支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の献立は、基本のメニューをもとに入居者の好みに合わせて調理方法を変えている。毎食一緒に食べる様にしているほか、準備や片付けは個々のレベルに応じて分担している。また、外食を行ったり、一緒に行事食を作ったりしている。	基本のメニューはあるが、例えば好みに応じて、揚げ物から煮物に変えたり柔軟に対応している。入居者の中には包丁を使ったり、皮むきを手伝う人もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや食べやすさに配慮した福祉食を業者に委託しているほか、食事量・水分量を毎日記録する事で、栄養の管理と水分の確保を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や能力に応じて口腔ケアを行っている。本人専用のタオルや歯磨きセットを使用し、順番を決めて行う事で、習慣化できる様にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを生活目標プランに反映させ、それを活用してトイレ誘導を行うことにより、排泄の自立支援につなげられる様にしている。	排泄パターン表をもとに、時間を見て声かけをしている。一時入院していた人が退院後おむつだったが、職員の支援で自立した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な散歩のほか、必要に応じて器械訓練を行う事で予防に取り組んでいる。また、毎日の様子を記録に残すことで、原因の解明に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回が基本だが、利用者の希望をできる限り反映している。また、ゆず湯やしょうぶ湯等、季節感を取り入れる様に努めている。	併設のデイサービスのお風呂を利用して、基本的には月・水・金は4階、火・木・土は3階の人が入浴している。拒否する人にも声かけを工夫して、スムーズに入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は、利用者のペースやその時の状態に合わせる様にしている。また、昼食後や外出後の休息も自由に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を使用しているほか、写真付きの薬の説明書をファイルに保存して、いつでも確認できる様にしている。変更の都度、個人記録に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせて役割分担を設けているほか、以前からの趣味や嗜好品を持ち込んでいただくことで、張り合いや喜びのある生活を楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の公園への散歩や買い物、外食等、定期的な外出の機会を設けている。また、お花見や紅葉狩り等、季節ごとの外出のほか、地域の観光スポットにも不定期で出かけている。	例えば買い物なども、すぐには対応できなくても、必ず応えるようにしている。また、外食を楽しんだり、思い立って出かけることもある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理はホーム側で行っているが、自己管理の可能な方には、少額を所持できるようにしている。買い物時も、本人が支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、家族や親戚、友人への電話を取り次いだり、年賀状のやり取りの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が不快や混乱をまねかない様に配慮しているほか、3階デッキでは洗濯物を干したり、園芸を行ったりして、季節感を取り入れるようにしている。	季節がら雛祭りの飾り付けがされていた。こまめに温度調整して、居心地よく過ごせるように配慮している。また、ホームは3階、4階にあるので、リビングからの見晴らしもよい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間では一人でTVを観たり、新聞を読んだりしてのんびり過ごせるようにしている。また、利用者同士でトランプやパズル等のゲームを楽しめる空間としても利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族と相談して、自宅で使い慣れた家具や生活用品を持ち込んで頂ける様にしている。また、本人が好みのものを購入できる様支援し、自分の部屋として居心地よく過ごせる様に努めている。	お位牌や写真など、大切なものを置いて、一人ひとりが安心して居心地よく過ごせる居室になるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入り口やトイレに手作りの表札を付けているほか、随所に手すりを設置し、一人ひとりが自分で行動できる様にしている。職員は常に見守りを行い、安全な環境づくりに努めている。		